

高知大学における 学認クラウドゲートウェイサービス

高知大学学術情報基盤図書館
石黒克也

NIIオープンフォーラム 2021 （ 2021/07/07 オンライン開催）

内容

- 高知大学の概要
- 学認および学認クラウドゲートウェイサービスの導入
- 学認クラウドゲートウェイサービスの現状
 - サービスの良い点
 - サービスの難点
- 学認クラウドゲートウェイサービスへの今後の期待

高知大学の概要

- 5つのキャンパス
 - 朝倉・物部・岡豊・小津・宇佐
- 6つの学部と大学院
 - 人文社会科学部
 - 教育学部
 - 理工学部
 - 医学部
 - 農林海洋科学部
 - 地域協働学部
- 構成員
 - 教職員数 約1800
 - 学生数 約5000



© OpenStreetMap contributors

学術情報基盤図書館概要

- 本学3つのキャンパスにまたがる3館から構成
 - 中央館(朝倉キャンパス)
 - 医学部分館(岡豊キャンパス)
 - 物部分館(物部キャンパス)
- 図書館機能と情報センターの機能を併せ持つ組織
- 主な担当業務
 - 大学図書館機能
(学術情報の収集・蓄積・提供)
 - 情報センター機能
(学内情報基盤の管理・運用)



中央館(朝倉キャンパス)

今回の講演のきっかけ

- NIIクラウド支援室からのメール(昨年度)
 - 学認クラウドゲートウェイサービスの利用者数が他機関と比較して多いため、どのように活用しているのか話を聞きたい、とのこと。
 - サービスを管理している部署(学術情報基盤図書館)がインタビューに応じ、内容をNIIのWeb上で紹介いただく。
- インタビュー内容について動画で紹介したいとお話をいただく
 - 本オープンフォーラムでの講演に



<https://cloud.gakunin.jp/interview/kochi/>

➤ 学認参加のきっかけ

- 学内からの要望
 - 大学契約の電子ジャーナルを学内からのみでなく学外からも読みたい
 - 他大学でも利用可能なeduroamを使いたい
 - 便利な学認サービスがあれば利用したい
- 学内情報システムの更新
 - 2017年度末から2018年度にかけて大学全体のネットワークシステムおよび情報システムを更新
 - 更新のタイミングで認証の仕組みなどを検討して学認に参加し、学認サービスを導入することに。

学認クラウドゲートウェイサービスの導入

➤ 学認クラウドゲートウェイサービス導入の動機

- 学認は一般ユーザにとってわかりづらい
 - 認証の仕組みが複雑
 - 学認対応サービスと各大学のユーザが使えるサービスが異なり、それぞれの大学のユーザが使えるサービスがわかりづらい
 - 図書館Webページに利用可能な学認対応ジャーナル一覧を載せるのもよいが、学認で利用できるサービスは電子ジャーナルだけではない
 - eduroamJP認証連携IDサービス
 - NII FileSender
- なども便利そう

⇒ ユーザに利用してもらうためには、大学で利用できる学認サービスのポータルサイトがあると便利

- ユーザは使えるサービスを一々調べる必要がなくなる
- 管理者は各サービスごとではなく、ポータルサイトのみをユーザに案内すればよい

学認クラウドゲートウェイサービス導入当初

- 情報システムの更新を機にサービスを導入
- 利用できる学認関連サービスを徐々に増やし、システムとして安定してきたタイミングを見計らって学内の各キャンパスで数回説明会を実施
- 説明会内容
 - 学認について
 - 学認クラウドゲートウェイサービスについて紹介
 - ここから入れば利用できるサービスが一目でわかる
 - サービスへのログインのみ行えば、各サイトでの認証は必要なし
- ユーザの学認サービスへの入り口として誘導
- Webページ上で学認対応サービスのポータルサイトとしてクラウドゲートウェイを紹介⇒誘導

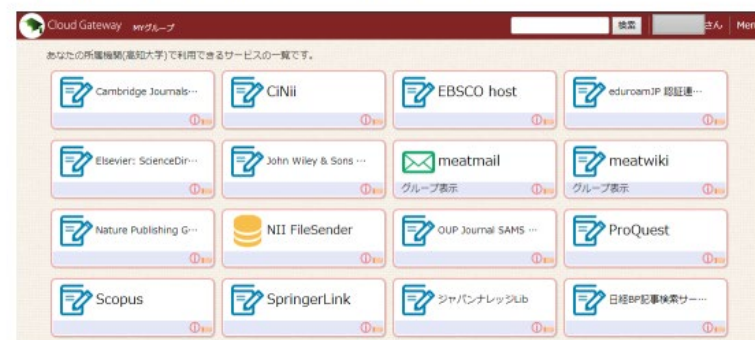
学認クラウドゲートウェイ



<https://cg.gakunin.jp/>

11

学認クラウドゲートウェイ



利用可能サービス(学内説明会当時 2018年)

➤ 電子ジャーナル・データベース

Cambridge Journals Online	CiNii
EBSCO	Nature
OUP Journals	ProQuest
ScienceDirect	Scopus
Springer	Wiley Online Library
ジャパンナレッジLib	日経BP

➤ その他

NII FileSender	大容量ファイル転送サービス
eduroam JP認証連携IDサービス	eduroam用ID発行サービス

学認クラウドゲートウェイサービスの現状

➤利用者数

- 学認クラウドゲートウェイサービスの「グループメニュー」から確認すると、現状は約290人がアクセス。
- 導入当初の説明会を行った時期に参加者がある程度増え、その後は月に数名程度新たな参加者が増加(管理者メニュー「メンバーリスト」より確認)
- 現在の参加者の半数以上が、新型コロナウイルスの影響が大きくなった昨年3月以降になってからアクセス開始
 - どのようなメンバー(教員・職員・学生など)がどのタイミングで増えているのかは不明
 - ユーザが自己登録してくれると把握可能



利用可能サービス (現在学認クラウドゲートウェイに表示しているもの)

➤ 電子ジャーナル・DBなど

Cambridge Journals Online	CiNii	EBSCO host
Maruzen eBook Library	Nature	OUP Journals
ProQuest	ScienceDirect	Scopus
Springer	Wiley Online Library	ジャパンナレッジLib
メディカルオンライン	日経BP	株式会社研究社

➤ その他

NII FileSender	大容量ファイル転送サービス
eduroam JP認証連携IDサービス	eduroam用ID発行サービス

➤ コロナ禍において学認対応サービスが増加し、それとともに本学で利用できるサービス数も増加。(クラウドゲートウェイに非表示のものも)

学認クラウドゲートウェイサービスの良い点

- 利用できるサービスがわかりやすい
 - 学認サービスの周知の場として利用できる(新たなサービスが開始されたとき、ポータル画面に表示されているとユーザに気づいてもらいやすい)
- Shibboleth連携しているサービス間ではシングルサインオンになるため認証の手間が減少する
 - サービスによってはサイトのどこで認証すればよいのかわかりにくいものがある
- セキュリティ上のリスク軽減
 - 検索サイトなどから危険なリンク先にアクセスする可能性が軽減される
- 管理者側からユーザへの学認サービスに関する案内が楽
- ゲートウェイ画面での学認サービスの追加・削除が簡単
 - 一部アイコンがないものがある
 - プライベートサービスについては未利用(何度か試したが設定失敗)

学認クラウドゲートウェイサービスの難点

- 利用ユーザの把握が難しい(ユーザにはクラウドゲートウェイ上で自分自身を登録するように案内しているが、登録してくれる人は少ない)
- ユーザがどのサービスを利用しているのか不明(NIIクラウド支援室に問い合わせると各リンクのクリック数はわかる)
 - 利用しているサービスがわかれば、それをもとにユーザへの案内などに活用できる可能性
- SP側でサービス一覧画面にアイコンを強制的に表示する設定になっている場合には、アイコンを何度削除してもいつの間にか元に戻ってしまう(現在は解決済み)

Kochi University > メンバーリスト	
	検索
※検索対象は氏名と、招待中のメールアドレスになります。 <前へ 次へ>	
氏名	
石黒 克也	
所属 :	
入会 : 2018/03/30	IdP : 高知大学 メール到達性 : ○
所属 :	
入会 : 2018/04/27	IdP : 高知大学
所属 :	
入会 : 2018/05/08	IdP : 高知大学
所属 :	
入会 : 2018/05/10	IdP : 高知大学
Guest	
所属 :	
入会 : 2018/05/13	IdP : 高知大学
高知 太郎	
所属 :	
入会 : 2018/05/14	IdP : 高知大学 メール到達性 : ○

学認クラウドゲートウェイへの今後の期待

- 管理者がゲートウェイサービスの利用者や利用者動向の把握ができるようになるとういのでは
 - 図書の閲覧記録と同様に取り扱いには注意が必要？
 - 匿名化しての利用など
- 提供されるサービスの幅が広がるとよい
 - 学認対応ジャーナル・データベースの拡充
 - その他の便利なサービスなど

学認クラウドゲートウェイへの今後の期待

➤ 他のシステムとの共存

- 高知大学では学認サービス(特に電子ジャーナル)の案内をmoodleでも行っている
 - 大学構成員であれば誰でも学外からも利用可能なWebページとして機能させており、Shibboleth認証しているためSSOになっている
- VPNサービスの利用(学内からの利用と同等)
 - コロナ禍においてVPNが広く使われるように
- (ユーザ目線での)学認クラウドゲートウェイならではの便利な機能があれば他のシステムと住み分けしやすいのでは？